

目的

- 会員相互の様々な利用方法、情報の集積と分析や課題の共有と解決
- 遠隔医療従事者に対する研修、大規模データによる地域の健康状況把握
- 継続的バイタル測定による個体内変動を考慮したテラーメイド健康管理のテーマに取り組む。
- ICT活用したヘルスケアデータのAIやPHR等の有効活用に対する研究・発表

「まいにち安診ネット」を用い、会員からの健康情報を高齢者医療の発展に役立てます。



概要

事務局：福岡県大野城市牛頸1034-5 筑紫南ヶ丘病院内

(社) JTCCの役割

本サービス契約と合わせてJTCCへ加盟して頂く事になります

- ① 医療面及び介護面からの運用サポート
- ② 全国から提供されるデータを集積・解析・評価
- ③ 評価を会員へフィードバック、シンポジウム等を開催
- ④ 技術向上のための医療・介護講座を開催

推奨機器

バイタル測定機器群	施設内機器
 テルモ電子体温計C215 ET-C215S	 入力端末 Ipad Air2以上
 テルモパルスオキシメーターA ファインパルスSP ZS-NS05	 事務所・ステーションPC
 テルモ体組成計B100 WT-B100DZ	 Felica®*リーダーライター Pasori RC-S390
 テルモ電子血圧計 H700 ES-H700D	<p>※Felica(フェリカ)は、ソニーが開発した非接触型ICカードの技術方式、および同社の登録商標である。</p>
 Felicaカード(Felica Lite-S) ※測定対象者の識別に必要	

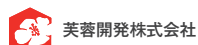
共同研究体

(病院と介護施設から生まれ、医学データを元に立証)

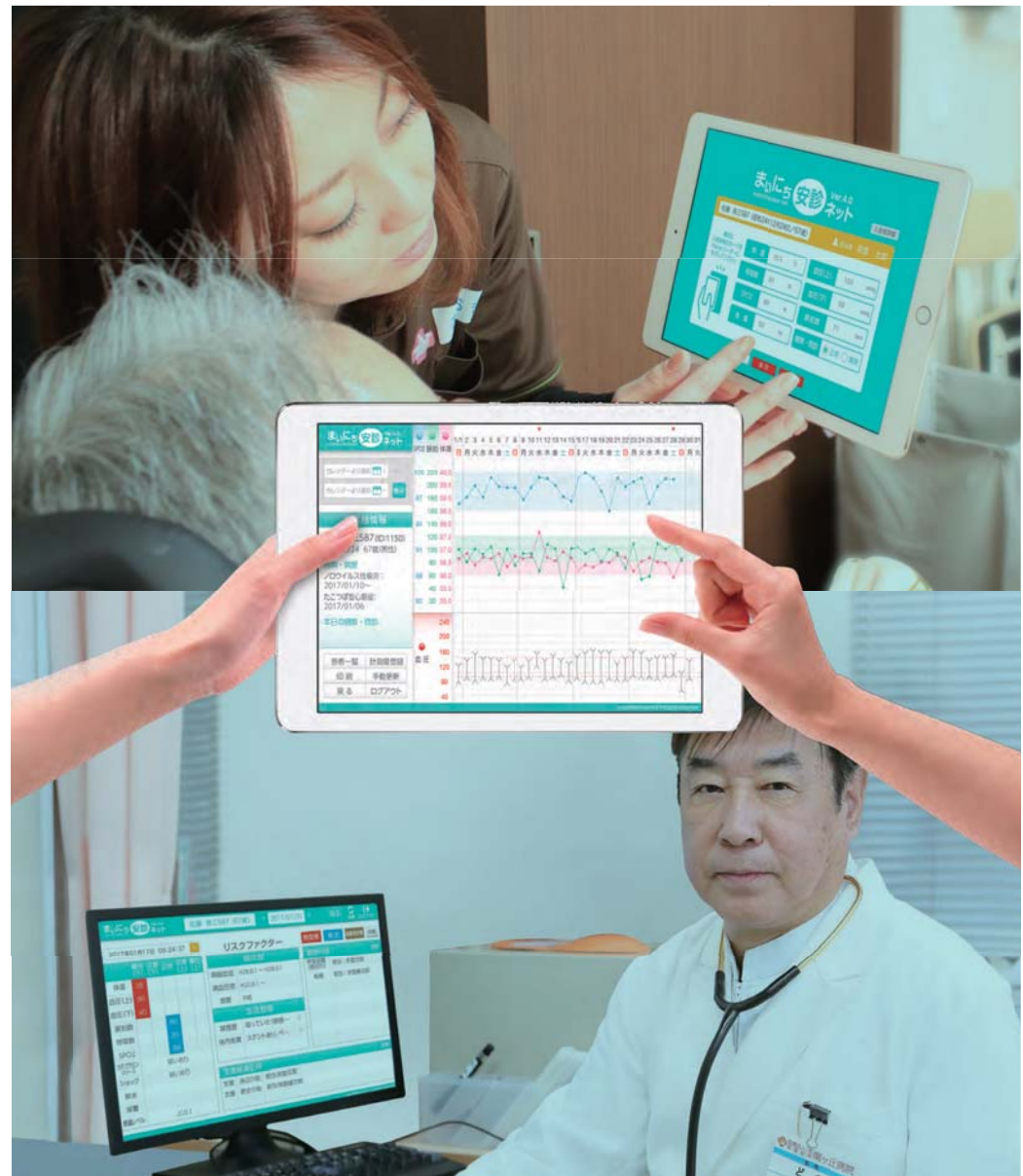


- | | | |
|---------------------------------|---|--|
| <p>〈製造〉
芙蓉ディベロップメント株式会社</p> | <p>〈医療アドバイザー〉
医療法人芙蓉会
筑紫南ヶ丘病院</p> | <p>〈臨床協力施設〉
医療法人芙蓉会
介護付有料老人ホーム</p> |
|---------------------------------|---|--|

製造・販売元



〒812-0015 福岡県福岡市博多区山王1丁目10-29
TEL.(092)471-8585



医師がそばにいるような安心

「勘」から「科学」へ

まいにち安診ネット



既往歴
入居時に既往歴を入力



バイタルデータ
血圧・脈拍・体温・酸素飽和度を送信。呼吸数・意識レベルを入力



健康ケア記録
他覚症状・自覚症状を入力



まいにち安診ネットへ入力するデータ

情報 端末



看護師

アラート※1
異常検知をチェック



医師

ヒアリング

「ヒアリング」
情報を聞き
指示を与える

既往歴等の健康データ

診断支援



病態パネル
[バイタル異常・症状異常・既往歴の一覧表]



熱型表
[バイタルの推移]



高齢者辞書機能※2
[バイタル逆引き]

診断の検定

発病時の病態因子のデータ

本サービスの6つの特徴

バイタル異常検知
テラーメイドの異常検知アラート表示

個人別症状異常
非典型的な高齢者の症状を既往歴に記録

情報共有
医療と介護現場で毎日ヘルスデータを共有

遠隔診断
密な情報と分析により離れた医師の診断支援

遠隔健康管理
医師不在の施設でも健康管理レベルが向上

イージーユース
現場本位に作られたタッチパネル入力

導入により期待できる効果

重症化予防
自覚症状の乏しい認知症患者などにも有効寝たきり減少

個別化医療
合併症など患者ごとに異なる兆候に対応

離職防止(介護施設)
医師との情報共有で毎日安心して働ける
介護施設

省力化
要注意患者を中心に診断、転記作業無し

集患(診療所)
週1回と毎日の健康管理による差別化

介護保険ダウン減少(介護施設)
入院短縮により介護保険の収入ダウン減少
介護施設

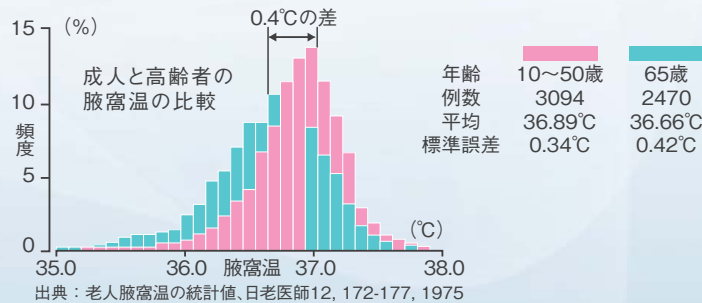
※1 アラート設定は導入先に各事業所の責任で設定していただきます。

※2 高齢者辞書機能については毎年、バージョンアップを行います。

在宅患者の症状をモニタリングし、早期に悪化の兆候をとらえる「遠隔健康管理システム」

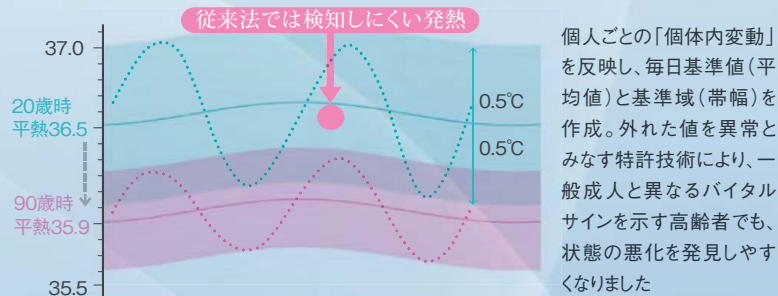


加齢によりバイタルサインは変化します

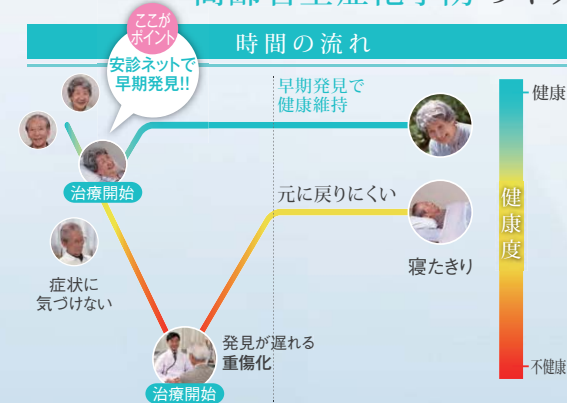


加齢により体温は低下、血圧は上昇、脈拍は低下する傾向にあります

テーラーメイドのバイタル検知技術

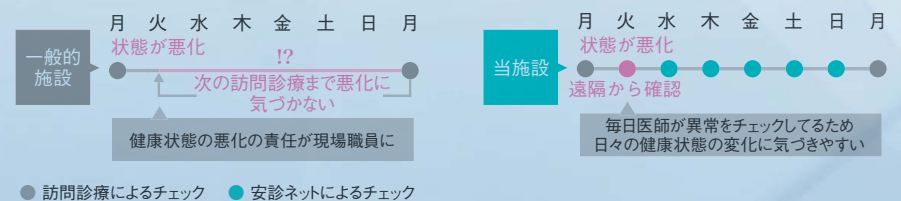


高齢者重症化予防のイメージ



認知症など自覚症状が乏しく、発病の発見が遅れがちな高齢者に対し、バイタル異常と他覚症状から早期発見し早期に医療介入できますので、重症化の予防を期待できます。

安診ネットは要注意患者の健康状態をまいにち情報共有



安診ネット画面（医師・看護師・介護士）

医師管理アプリ

逆引き高齢者辞書

バイタル症状から疾患候補を検索

投薬情報が確認できる

経時的なバイタル変化を看護師が熟型表で確認

安診ネットで 情報共有

健康ケア記録アプリ

何かおかしいボタンを搭載

患者様のバイタルを測定・自動入力

バイタル異常 × 既往歴 × 症状異常

個別症状を既往歴に自動更新

医療情報を 自動徴収

介護記録アプリ

オプション

介護記録アプリをオプションで付ける事ができます

タッチパネルで簡単に入力できます

一括入力画面

「高齢者医療」に「まいにち安診ネット」が有効な理由

- | | |
|------------------|------------------|
| 問診が有効でない(認知症等) | バイタルから病態群を分類 |
| 症状が非典型的(医学書に記載無) | 個別症状を既往歴に記載 |
| バイタルが一般成人と異なる | テラーメイドのバイタル異常検知 |
| 看護師の観察密度が低い | アラートで患者の観察密度を上げる |
| 専門外の医療分野まで1人で担当 | 高齢者辞書 |

WIN WIN WIN
モデル

事業所
効率的かつ均一的に医療レベルを向上

高齢者患者
亡くなる直前まで元気に

厚労省
大幅な医療費削減

安診ネットの歩み

- 2008年** ● まいにち安診ネット Ver.1.0 をリリース
- 2012年** ● 住宅型有料老人ホームメディカルケア二日市温泉にてまいにち安診ネット Ver.2.0 の試験運用を行う
- 厚生労働省が遠隔医療の事実上解禁をする
- 2015年** ● 介護付有料老人ホームメディカルケア南ヶ丘にてまいにち安診ネット Ver.2.2 を導入
● JTCC (日本遠隔医療介護センター) を設立
● 長崎大学医学部と共同研究が実施され、日本中から注目されるシステムになりました
- 2016年** ● 経済産業省の平成 28 年度新連携事業認定及び補助金採択
● 岡山にてモニター事業開始。日本遠隔医療学会で演題発表
- 2017年** ● Ver.3.0 試験運用
● 平成 29 年度、厚生労働科学研究に指定
● 厚労省の「保健医療分野におけるAI活用推進懇話会」にてプレゼン

安診ネットは全国から多数の取材を受けております



モニター事業所の一例

メディカルケア南ヶ丘(施設の平均要介護度3.7) / 2017年3月現在

離床率 **80% 以上**※1
入居者の方がいきいきと過ごされています

寝たきり期間 **1/20 以下**※2
重症化予防の取り組みの結果として

※1 離床の定義：毎日ベッドから離床されている方たち
 ※2 厚生労働省「平成 10 年国民生活基礎調査」をもとに算出した全国平均の寝たきり期間約 1,533 日との比較した場合
 ※上記の結果は事業所の総合的な取り組みの結果であり、まいにち安診ネット単体の効果を保証するものではありません